

Modified paratricipital approach without mobilization of the ulnar nerve prevents postoperative ulnar neuropathy in distal humerus fractures

J Orthop Sci . 2023 Sep;28(5):1113-1117. doi: 10.1016/j.jos.2022.06.018. Epub 2022 Jul 31.

背景 上腕骨遠位部骨折の手術では術後尺骨神経障害がよく起こる合併症である。この研究は modified paratricipital approach の有用性を調査したものである。このアプローチは上腕三頭筋と尺骨神経の連続性を保ち、一塊にして挙上することで尺骨神経の前方垂脱臼してプレートと接触することを防ぐものである。

方法 2018年12月から2020年3月までに当院で、このアプローチで上腕骨遠位部骨折を手術した13名を対象とした。尺骨神経障害、Mayo Elbow Performance Score, 可動域を評価した。

結果 本研究では尺骨神経障害は見られなかった。最終観察時の Mayo Elbow Performance Score の平均は 97.7 点であった。平均可動域は 132.7 度(115 度-145 度), 平均屈曲拘縮角度は 4.2 度 (0 度-10 度), 平均屈曲角度は 136.2 度(120 度-145 度)であった。整復位損失によるインプラント折損が 1 例で見られたがそれ以外は全例骨癒合した。

結論 本研究の結果から、modified paratricipital approach が術後尺骨神経障害を防ぐ上で有用であることがわかった。modified paratricipital approach は上腕骨遠位部骨折手術をするときに安全で信頼できる方法と考えている。